

研究者リーダーシップ・プログラム

「第1回 参加者による自己紹介とリーダーシップについて」参加レポート

研究者リーダーシップ・プログラムの第1回に参加した。今回は、参加者同士の自己紹介に続き、東村博子前副総長から多様性に関するご講演をいただいた。東村先生は、名古屋大学において男女共同参画の推進に尽力され、学内保育園「こすもす保育園」の創設に深く関わられたことで広く知られている。日頃から同園を利用し、そのありがたみを実感している私にとって、先生のお話を直接伺える機会は大変貴重であった。

講演では、名古屋大学が東村先生のご貢献により、日本国内でもトップレベルのダイバーシティ推進を実現していることを知った。これまで欧米に比べ日本の多様性の低さを痛感していたが、国内の大学においても着実に取り組みが進んでいることを知り、心強く思った。

また、無意識の偏見(Unconscious bias)についても学ぶことができた。多様性が当たり前となり、無意識のバイアスすら自然に解消される社会の到来を期待したい。ダイバーシティの拡大が社会の活性化や科学のイノベーションにつながるという事実は、非常に印象深く心に残った。

さらに、東村先生のポジティブな姿勢は、リーダーシップを考える上でも大きな示唆を与えてくださった。特に「自分の強みを知って育むこと」「他者へのアドバイスは肯定的に行うこと」といった視点は非常に参考になった。加えて、「頼りないリーダーであってもよい」というメッセージは、急遽リーダーを務めることになり不安や戸惑いを抱える多くの参加者にとって大きな励みとなった。

今回のプログラムは、ダイバーシティの重要性に加え、リーダーとしての心構えについても学ぶことができた有意義な機会であった。

(兼子拓也・名古屋大学大学院理学研究科／高等研究院 YLC 特任助教)